

消防ポンプ自動車CD-I型

仕様書

令和8年度

草加八潮消防組合

目 次

第1	総則	1
第2	全般仕様	4
第3	シャシ	8
第4	キャブ	10
第5	消防ポンプ用動力取出装置	13
第6	消防ポンプ装置	13
第7	水槽	19
第8	ボディ	19
第9	ボックス類	21
第10	積載はしご昇降装置	23
第11	ホース延長用資機材	23
第12	空気呼吸器取付装置	24
第13	吸管巻取装置	24
第14	更新対象車両からの載せ替え機器	24
第15	取付品及び取付装置	25
第16	附属品	26
第17	その他	26
別表1	備えなければならない取付品及び取付装置	27
別表2	軽微な変更として備えることができる取付品及び取付装置	27
別表3	備えなければならない附属品	28
別表4	軽微な変更として備えることができる附属品	29
別表5	その他の取付品及び附属品	29
別表6	移設物品	32

第1 総則

1 目的

この仕様書は、草加八潮消防組合（以下「組合」という。）が令和8年度に購入する消防ポンプ自動車CD-I型（以下「ポンプ車」という。）の艤装、性能及びその他製作に関する必要な事項について定める。

2 概要

このポンプ車は、主として次に掲げるものにより構成するものとする。

- (1) シャシ
- (2) キャブ
- (3) 消防ポンプ用動力取出装置
- (4) 消防ポンプ装置
- (5) 水槽
- (6) ボディ（収納庫）
- (7) ボックス類
- (8) 積載はしご昇降装置
- (9) ホース延長用資機材
- (10) 空気呼吸器取付装置
- (11) 吸管巻取装置
- (12) 更新対象車両からの載せ替え機器
- (13) 取付品及び取付装置

3 車両条件

ポンプ車は、この仕様に適合して製作するとともに次の条件を満たし、消防車両として最適の構造及び性能を十分に有するものであること。

- (1) 堅牢にして、常時、登録された車両総重量の状態において長期の使用に十分耐え得るものであり、かつ、維持管理が経済的に行えるものであること。
- (2) 車体の艤装材料は、J I S（産業標準化法（昭和24年法律第185号）第20条第1項の日本産業規格をいう。以下同じ。）G 3 1 0 1（一般構造用圧延鋼材）又はこれと同等以上の強度及び耐久性を有するものを使用すること。
- (3) ポンプの艤装材料は、動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和61年自治省令第24号、以下「規格省令」という。）の規格に適合するものであること。

- (4) ホースの結合用ねじ部の艤装材料は、消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の金具の技術上の規格を定める省令（平成25年総務省令第23号）の規定に適合するものであること。
- (5) 使用取扱い上の安全及び操作性を十分考慮したものであること。
- (6) 清掃、点検、整備及び調整が容易に行えるものであること。
- (7) ポンプ車製作全般に当たり、活動隊員の労働軽減、安全性及び軽量化に十分な配慮が図られていること。
- (8) 道路狭あい地域において、円滑な消防活動が行えるよう各部分のサイズをコンパクトにする配慮及び研究がされていること。
- (9) 車両の製作は、消防用車両の安全基準検討会が定める「消防用車両の安全基準について」の項目を満足し、ISO認証取得による品質管理システムにて製造が行われていること。また、納車時に認証取得が分かる書類を提出すること。

4 関係法令等

次の法令等を遵守すること。

- (1) 道路運送車両法（昭和26年法律第185号）
- (2) 道路交通法（昭和35年法律第105号）
- (3) 電波法（昭和25年法律第131号）
- (4) 自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（平成4年法律第70号）
- (5) 道路運送車両の保安基準（昭和26年7月運輸省令第67号）
- (6) 埼玉県生活環境保全条例（平成13年条例第57号）
- (7) その他関係のある法令

5 特許等

工業所有権に関する法令、第三者の有する特許法（昭和34年法律第121号）、実用新案法（昭和34年法律第123号）又は意匠法（昭和34年法律第125号）上の権利及び技術上の知識を侵害することのないよう必要な措置を講ずること。また、それらの運用・適用に係る費用は、受注者の負担とすること。

6 疑義

製作に当たり、この仕様書又はこの仕様書に記載のない事項について疑義が生じた場合は、直ちに組合に連絡及び協議し、承認を受けるものとする。

7 提出書類

- (1) 受注者は、契約後速やかに契約金額内訳書を提出するものとする。
(2) 受注者は、製作に当たり次の関係図書を製本の上、組合の承認を受けるものとする。

ア 製造工程表	2部
イ 車両、艀装五面図	2部
ウ ポンプ及び配管図	2部
エ 電気系統配線図	2部
オ その他組合が指示するもの	必要部数

- (3) 納車時に次の関係図書を製本の上、提出するものとする。

ア 車両、艀装五面図	2部
イ 製造工程写真（シャシ、組立中、塗装後、艀装後）	1部
ウ 試験工程写真（転覆角度試験、重量実測試験、放水試験）	1部
エ ポンプ及び配管図	2部
オ 電気系統配線図	2部
カ ポンプ等試験成績表	2部
キ 検定協会鑑定銘板の写し	1部
ク 自動車改造計算書	1部
ケ 車両重量実測書	1部
コ ポンプ関係取扱説明書	2部
サ シャシ関係取扱説明書	2部
シ 緊急自動車届出確認書	1部
ス 写真（前後左右）	1部
セ 納品書及び納品内訳書	1部
ソ I S O 認証取得の写し	1部
タ 保証書	1部
チ その他組合が指示するもの	必要部数

8 検査・納入・保証

- (1) 製作工程において、艀装状況、装備品及び附属品の積載取り付け前の状況について、中間検査を1回以上行うこと。また、中間検査を行うときは、30日前までに組合へ検査日時及び場所等を記載した書面を提出し、承認を得ること。

- (2) 納入時において、この仕様書に基づく完成検査を実施し、その結果不合格と認めた箇所について、直ちに改修し再検査を受けなければならない。
- (3) 検査を受けるときは、検査に先立ち社内検査成績書及び社内検査の状況写真（隠蔽部で検査時に確認できない部分等）を提出すること。
- (4) 納入時、車両及び各資機材の燃料は、それぞれの限度まで入れること。
- (5) 納入時及び新車点検時の点検整備は、細部にわたり実施し、特に各部の増し締めを行うこと。
- (6) 1か月点検時エンジンオイル及びオイルエレメント一式を無償で交換すること。
- (7) 保証期間は1年間とする。ただし、保証後といえども製造元が独自で保証期間を定めている場合又は設計不良、工作不良に起因する不具合が生じた場合には、無償で部品の交換及び修理を行うこと。
- (8) 車両の登録、廃棄処分、その手続、回送及び納車完了までの費用は、全て受注者において負担するものとする。ただし、自動車損害賠償責任保険料（24か月）、自動車重量税及びリサイクル料金については、受注者が立替え別途請求すること。
- (9) 納入後、1年以内にポンプ等の保守点検を受注者が無償で行うこと。
- (10) ポンプ車を安全に使用するための講習を実施すること。

なお、講習時期、講習内容及び講習期間にあつては別途協議すること。

- 9 納入期限は令和9年3月31日（水）とし、納入場所は草加市清門二丁目1番地43、草加八潮消防組合草加消防署北分署とする。

10 支払方法

支払方法は業務完了払とする。

第2 全般仕様

1 一般事項

車両は、この仕様書に掲げる仕様を上回る強度、耐久性及び機能を有するものとする。また、走行中の振動、操作等に十分耐え得る構造にするとともに、走行及びアイドリング時にビビリ音等の発生しない構造とすること。

2 使用材料及び材質

- (1) 使用される材料は、耐蝕性に優れたもの又は必要に応じ防蝕処理が施されたものであり、難燃性に優れたもの及び経年変化の少ない素材を適正に選定すること。
- (2) 使用材料及び部品は全て新規製品又は新品とすること。

- (3) 車両に使用する材料及び部品は、特に指示するものを除き日本産業規格品を使用すること。ただし、ボルトナット類はステンレス製とし、I S Oねじ又はこれに準ずるものを使用すること。
- (4) プラスチック類は、原則として難燃性のものを使用すること。
- (5) ゴム製品は、原則として耐油性の合成ゴムを使用すること。

3 構成品

車両及び装備品は、全て新規製品又は新品とすること。

4 標準取付品

公表した標準取付品及び装備品は、全て納入すること。ただし、この仕様書で指定したものと重複するものについては、組合と協議し除くことができるものとする。

5 電装品

- (1) メイン電源をカット（O N ・ O F F）できる装置を設けること。
- (2) バッテリーは、保守点検が容易にできるように設置し、プラス側の端子には、短絡を防止するための保護カバーを取り付け、極性を逆にして取り付けないための措置を講じること。
- (3) バッテリー配線は、第2種キャプタイヤケーブルとし、配線の長さは、バッテリーが引き出された状態を見込んで余裕を取り、バッテリー引出作業を繰り返しても緩まない構造とすること。
- (4) 無線妨害防止措置として各電装品は、電波障害の発生しないものとする。
- (5) 電気配線は次のとおりとする。

ア 艀装品用配線は、エンジンスターツスイッチのA C Cに連動し通電すること。

イ 各配線及び電装品端子等は、燃料配管及びブレーキ配管との接触を避け、整然と敷設固定し、振動及び接触により短絡しない構造とするとともに、雨水のかかる部位の端子は防水処理を施すこと。

ウ 熱の影響を受ける可能性のある部品は、耐熱ケーブルを使用し、断熱処理を施すこと。

エ 配線が貫通する部分及びフロア等でケーブル摩耗等のおそれのある部分は、グロメット又は保護管等による摩耗防止処理を施すこと。

オ 電機部品及びこれらの結合部分は、J I S C - 0 9 2 0（電気機器の防水試験及び固形物の侵入に対する保護等級）保護等級1（防滴I型）又は保護等級2（防滴II

型) とすること。ただし、水密部又はこの処理を特に必要としない部位については、この限りでない。

カ 各配線は、絶縁性に優れ余裕長のあるものを色分けして使用すること。

キ 各電装品は、各標準ヒューズボックス又は増設ヒューズボックスに接続すること。

ク 増設ヒューズボックスはブレードヒューズ型とし、被覆保護を施し、名称を見やすい位置に表示すること。

ケ 配線等は、原則として露出することなくダッシュパネル及び内張等の内側とすること。

(6) ボンディングアースを組合の指定する箇所に取り付けること。

6 塗装

(1) 車体は、特殊化学液にて錆落としの上、リン酸塩被膜を形成後、プライマーパテ、水研及びサフェーサーを行い熱風乾燥炉にて乾燥させてから赤色ウレタン塗装にて吹きつけを行い、再び熱風乾燥炉にて乾燥させること。

(2) 塗装の色分け等は、次の表のとおりとする。ただし、アルミ縞板、アルミ保護板、ステンレス部及び銘板等は地色とすること。

部 位		塗 色	備 考
外 枠 部	外側（シャッター外側含む）	赤	日本産業規格 168 スカーレット樹脂形塗料
	内側	シルバー	
ボ ッ ク ス 内 部		シルバー	
ポ ン プ 配 管		淡青又は赤	
作 動 油 配 管		黄	
給 脂 ニ ッ プ ル		黄	
空 気 配 管（給 水 側 配 管）		白	
給 油 配 管・グ リ ー ス 配 管		茶	
ド レ ン 配 管		青	

(3) 下地処理

ア 錆止め塗装は、溶接ミスト除去及び錆落とし等を十分に実施後に行うこと。

イ 塗装部分は、全て密着性向上のため下地処理サンドペーパー又はナイロンタワシ等により足付けをすること。

なお、長年運行しても足付け跡が透けないよう考慮すること。

ウ 脱脂剤等を使用し、縮み、剥離等が発生しないよう脱脂を十分に行うこと。

エ 外板部等は、錆止め作業を実施し、塗装後フェザーエッジが出ないよう素地調整を行うこと。

(4) 異物、エアークレーム、塗料たれ、縮み、艶引け、透け、ブラッシング及び異物混入のないよう塗装すること。

(5) 外板部の塗膜肌（ポリッシング）は、ゆず肌及び粗め跡を完全に消去し、塗り肌を鏡面に近い仕上げとすること。

なお、外板部内部及びポンプ配管系の塗装肌は、ノンポリッシング可とする。

(6) 塗装範囲は、フロントバンパーを含むボディ内外装とすること。

なお、ウェザーストリップ、水きりゴム及びパネル溶接部等をブロック単位とし、範囲詳細は別途協議すること。

(7) マスキングは、非塗装部分にミストが飛散しないよう留意すること。

なお、ドアアウターハンドル、Fサイドウインカーレンズ、ウォッシャーノズル及び車両メーカーシンボルマークエンブレム等の容易に離脱可能な部品は、取り外してから塗装すること。

7 文字表示

(1) キャブ及びボディに標記する文字フォントは、特に指示するものを除きすべて丸ゴシック体左書きとし、次のとおり記入すること。

ア キャブ左右後部ドアに「草加八潮消防局」と白色で記入すること。

イ ボディ上部に「草加北2」及び「草加八潮消防局」と、紺色で対空表示を記入すること。

ウ キャブ前部左側及び車体後部に「草加北2」と白色で記入すること。

エ 標識灯部に「草加北2」と黒色で記入すること。

オ ボディ後部シャッター及びボディ左右シャッターに「草加八潮消防局」及び「SO KAYASHIO FIRE BUREAU」と白色で記入すること。

(2) 車両後部に組合指定の車両番号「3桁の数字」を記入すること。

(3) ボディの組合が指示する場所に、再帰性に富んだ反射テープを貼付すること。

なお、詳細にあつては、別途協議すること。

(4) その他の文字表示（デザイン）については別途協議すること。

- (5) 文字材質は、反射材又は反射屋外用カッティングシートとし、位置及び大きさについては別途協議すること。
- (6) 「草加八潮消防局」、「草加北2」と明記した切抜き文字白文字・黒文字（大・中・小）を各20枚作成すること。
- (7) 組合の指定するマグネットシートを指定枚数作成すること。

8 銘板

次に掲げる事項を見やすい箇所に容易に消えないように表示すること。

- (1) 製造に関する銘板
- (2) 主要諸元に関する銘板
- (3) 操作に関する銘板
- (4) 取扱方法の概要及び注意事項に関する銘板
- (5) 各スイッチ類には、名称及び「ON・OFF」の表示をすること。
- (6) 計器類には、名称を表示すること。
- (7) バルブ及びコック類には、名称や開閉方向を表示すること。
- (8) 操作装置には、名称や操作方向を表示すること。

第3 シャシ

1 車両に使用するシャシは、最新のポスト新長期排出ガス規制に適合したものであること。

2 使用シャシ

- (1) 消防認定専用シャシとする。
- (2) エンジンについては、次の諸元・性能以上を満たすこと。
 - ア 水冷4サイクル直列4気筒ディーゼルエンジン（過給機付）とすること。
 - イ 排気量は、4.0L以上とすること。
 - ウ 最高出力は、110kW（150ps）以上とすること。
 - エ 最大トルクは、440N・m（44.9kgf・m）以上とすること。
 - オ エンジンガバナーは、電子式オールスピードガバナーとすること。
- (3) 駆動方式は、後輪駆動方式とすること。
- (4) 動力伝達装置は、オートマチックトランスミッション式とすること。
- (5) ブレーキ装置は、ABS装置付きとすること。
- (6) ステアリングは、パワーステアリングとすること。
- (7) ホイルベースは、2,825mm以上とすること。

- (8) 乗車定員は、5名とする。
- (9) オルタネーターは、24V-80A以上とすること。
- (10) バッテリーは、130E41R×2（引出式）以上とすること。
- (11) 完成車の主要寸法
 - ア 全長6,000mm以下とすること。
 - イ 全幅1,920mm以下とすること。
 - ウ 全高3,000mm以下とすること。
- (12) 車両総重量は7,300kg未満とすること。
- (13) 燃料タンク容量は、70L以上（給油口、油種、最大数量を明記）とすること。
- (14) その他
 - ア 運転席SRSエアバック
 - イ LEDヘッドランプ
 - ウ LEDフォグランプ
 - エ パワーウインドウ（全席）
 - オ 電磁ドアロック（集中ドアロック）
 - カ 手動パーキングブレーキ
 - キ サンバイザー（左右）
 - ク 純正シングルエアコン
 - ケ リヤクーラー（ユニット一体型）
 - コ スタッドレスタイヤ（スペアタイヤを含む、メッキホイールカバー付）
 - サ バッテリーメインスイッチ（LED）
 - シ バッテリーメインスイッチ照射灯（LED）
 - ス スポイラー付フロントバンパー
 - セ サイドステップカバー
 - ソ 運転席及び助手席電動格納2面鏡式ミラー（熱線付）
 - タ バックアイモニター及びサイドモニター（ルームミラー型）
 - チ ドライブレコーダー（32GBのSDカード付）
 - ツ GPS時計
 - テ ステンレス製プレス型ナンバープレート枠（後部LEDナンバー灯）
 - ト LED式テールランプ

ナ GPSカーナビゲーション (チューナーレス)

3 次に掲げるものは、経年劣化防止のためメッキカバーを取り付けること。

- (1) ミラーステイ
- (2) 運転席、助手席 2 面鏡ミラー
- (3) フロントグリル

4 標準取付品

この仕様において、指定したもの以外の装備については、シャシメーカーが公表した標準取付品を装備すること。

5 附属品

シャシの附属品は、次のとおりとする。

- (1) エンジン回転計及び油温計
- (2) タイヤチェーン (シングル)
- (3) 音声合成警報ブザー
- (4) LEDタイヤ灯 (左右後輪灯)
- (5) 車輪止
- (6) フロアーマット (ダブルキャブ用)
- (7) 工具一式
- (8) 泥よけ
- (9) 樹脂製サイドバイザー (前後ドアウインドウ)
- (10) 非常用信号器具 (発煙筒、非常信号灯、三角停止板)
- (11) 牽引ロープ
- (12) ブースターケーブル
- (13) 電装用予備球
- (14) 予備ヒューズ (使用種類分)
- (15) その他車両運行基準に規定されたもの

6 その他

シャシメーカーの都合により、シャシが変更になった場合は、本仕様書に記載されている仕様の同等品又は同等品以上のシャシを納入すること。

第4 キャブ

1 キャブ外部

- (1) キャブーフは軽量かつ十分な強度を有し、耐蝕性、耐熱性及び耐紫外線に優れたGFRP素材等を使用し、居住性に優れたハイルーフ構造とすること。
- (2) フロント散光式赤色警光灯はキャブ一体埋込型でキャブ上部左右に設け、省電力で玉切れの少ないLED灯とし、車両前方及び側方一体を照射できる配置とすること。
- (3) 電子サイレン用スピーカー及びモーターサイレンをキャブ上部前方中央部に埋め込み一体型にて設け、前方音量を確保しながら、車内への音量を大幅に削減するアクティブ制御スピーカーとすること。
- (4) キャブ乗降時摩擦等のおそれのある部分及びキャブステップ蹴込部に保護板又は保護シート等を取り付けること。
- (5) フロントバンパーは、上面にアルミ縞板による滑り止め措置をすること。
- (6) 各座席乗降部にステンレス製乗降用アウターグリップを取り付けること。
- (7) フロントウインドウ上部にステンレス製グリップを取り付けること。
- (8) 電動油圧キャブチルト装置を取り付けること。
なお、積載はしご昇降装置が収納状態の時に操作できないよう、安全装置を取り付けること。

2 キャブ内部

- (1) 座席は前向きとし、前席2人、後席3人掛けとすること。
- (2) 助手席シートは、ヘッドレスト連動アームによる空気呼吸器ホルダー内蔵シートに変更し、補助背当てを取り付けること。
- (3) 後席後部をボックス形状に張り出し（パンチングメタル取り付け、S字フックを5個取り付けること。）空気呼吸器取付装置を2基設置し、呼吸器ブラケット部1/3収納棚を取り付けること。
- (4) 後部座席は上下スライド式とすること。
- (5) 各座席に、超防汚性シートカバー（ヒーター付）を掛けること。
なお、色については別途協議すること。
- (6) 各座席にシートベルトを取り付けること。
- (7) 前席後部のキャブ中間に走行時における安全確保に必要な中間パイプ（ステンレス製乗降用インナーグリップ増設）を取り付け、ステンレス製S字フックを10個取り付けること。
- (8) 各ドアにLED足元灯及び側面赤色スレンダーLED灯を取り付けること。

- (9) 運転席と助手席の間に収納ボックス及びセンターシート足元ボックスを設置し、収納ボックスにAC100Vコンセント（3口）及びUSB差込口（2口）を取り付けること。
- (10) 中間パイプ中央下部に、リヤクーラーを設置し、右側に1／3中間下パンチングメタルを取り付け、パンチング用小物入れボックスパンチングを4個取り付けること。
なお、詳細については別途協議すること。
- (11) オーバーヘッドコンソールに、GPS時計を取り付けること。
- (12) キャブ内にルーフセンターコンソール（下部及び前側パンチングメタルタイプ）を設置し、ルーフセンターコンソール後部に飛び出し防止ネットを取り付けること。
- (13) キャブ内にルーフリヤコンソール（下部パンチングメタルタイプ）を設置し飛び出し防止ネットを取り付けること。
- (14) 運転席及び助手席にバータイプLED灯、後部座席にLED灯（大）及び任意で点消灯ができるLED式フレキシブルマップライト2個を取り付けること。
- (15) キャブ内照明灯及びバッテリーメインスイッチ照射灯は、バッテリーメインスイッチに関係なくドア連動で点消灯する構造であること。
- (16) フロントウインドウ、前席及び後席ウインドウに赤外線、紫外線カットフィルムを貼付すること。

3 バッテリー充電装置

- (1) AC100Vの電源により、シャシ積載のバッテリーに自動的に充電する装置（過充電防止装置付）を取り付けること。
- (2) 運転席側後席の乗降の支障とならない位置に、マグネット式外部入力コンセント（以下「外部入力」とする。）を設けること。
- (3) 外部入力へコンセントを取り付けた時、キャブ内に取り付けたAC100Vコンセント等が使用でき、エンジン始動時はインバータからの電源とする自動切換え構造とすること。また、スイッチを切り替えることにより、オイルパンヒーターが使用できる構造とすること。
- (4) バッテリー充電装置は、水及び埃等が付着せず、放熱を妨げないような措置を講ずること。

4 機能集中操作スイッチ

- (1) 取付位置は、オーバーヘッドコンソール助手席側とすること。

(2) 各スイッチの機能を明瞭に表示し、電源は、エンジンスタートスイッチのACCに連動する照度調節機能付きで、LED透過照明ディスプレイとすること。

(3) 各スイッチ表示は、別途協議すること。

5 各種警告モニター

オーバーヘッドコンソール運転席側に、各シャッター、扉及び取付装置等の開閉、収納状況が確認できるモニターを取り付けること。また、サイドブレーキ連動で警告音が鳴る構造とすること。

6 消防エンブレム

キャブフロントグリル中央上部に耐蝕メッキを施した直径150mmの消防章を取り付けること。

第5 消防ポンプ用動力取出装置

1 消防ポンプ用動力取出は、フルパワー（フライホイール）PTO式とすること。

2 動力接続機構は、油圧多板クラッチ方式とし、次のとおりとすること。

(1) 接続回路は、通常用及び緊急用の2系統とすること。

(2) 動力接続中は、シフトレバー操作時にエンジンが停止する機構等の安全装置を設けること。

(3) 通常用スイッチは、接続を確認できるパイロットランプ等を設けること。また、スイッチは誤操作しないものであること。

(4) 緊急用回路スイッチは、操作しやすい位置に設置し、フタを取り付ける等誤操作しないよう安全対策を講じること。

第6 消防ポンプ装置

1 ポンプの艀装材料は、規格省令の規定に適合すること。

2 性能

性能は、規格省令が定めるA-2級以上とし、放水能力は次のとおりとすること。

(1) 規格放水性能は、0.85MPaにおいて規格放水量 $2.0\text{ m}^3/\text{min}$ 以上とすること。

(2) 高圧放水圧力は、1.4MPaにおいて高圧放水量 $1.4\text{ m}^3/\text{min}$ 以上とすること。

3 ポンプ駆動装置

(1) シャフトは、努めて水平に取り付けること。

(2) シャフトには、2個のユニバーサルジョイントを使用すること。

(3) ユニバーサルジョイントとスプラインシャフトには、給脂が容易にできるようニップ

ルを取り付けること。

- (4) フランジ結合部は、特別な場合を除き、通しボルトを使用すること。

4 ポンプ

- (1) ポンプの材質は車体全体の軽量化を考慮すること。
- (2) ポンプ本体の耐水圧性能は、締め切り圧力の1.5倍以上とすること。
- (3) 軸受部の気密閉は、メンテナンスフリーのメカニカルシール構造とすること。
- (4) 軸受部は、グリス等の給脂が不要なグリスレスタイプとすること。
- (5) ポンプ放口側に、自動放口閉塞弁（逆流防止弁）を設けること。
- (6) ポンプと真空ポンプの間に、水遮断装置（止水弁）を設けること。
- (7) 真空ポンプと水遮断装置の間に、逆流防止装置（チェックバルブ）を設けること。
- (8) ポンプ下部に、ポンプレバー又は通常用及び緊急用電磁クラッチ接続回路スイッチと連携で開閉するポンプドレンを設けること。

なお、上記の機構に障害が発生した場合においても、閉止可能な独立した手動式バルブ又はコックを設けること。

5 真空ポンプ

- (1) 真空ポンプの機能及び性能については、規格省令第25条の規定に適合すること。
- (2) 真空ポンプ装置は、資機材収納スペースの確保、軽量化及び故障リスクを少なくするため、圧縮空気泡消火システムのコンプレッサーから吐出される空気を利用して真空状態を形成するエゼクター方式とすること。
- (3) 真空ポンプの駆動は、P T Oを介して行う構造とし、次のとおりとすること。
 - ア 押ボタンにより作動し、揚水完了時に自動的に作動停止する構造とすること。
 - イ 作動確実で振動及び騒音が少ないものとする。
 - ウ ミッション部等に潤滑油を必要とする場合は、その油量が車体側面から確認できること。
- (4) エンジンスロットルは、真空ポンプ作動ボタンを操作することにより、自動的に揚水に最適な回転に上昇し、揚水完了後、アイドリング状態に戻る構造とすること。
- (5) 揚水完了後に落水した場合は、警報音を鳴らす構造とすること。
- (6) 停止ボタンを操作することにより、真空ポンプの回転が停止し、かつ、エンジンスロットルがアイドリング状態に戻る構造とすること。

- (7) 真空ポンプ作動回路が故障した場合でも、支障なく真空ポンプを作動させることができる独立した緊急作動回路を設けること。
- (8) 外部からの空気供給口を設け、空気呼吸器用ポンベの圧縮空気を利用し揚水が可能な構造とすること。また、空気呼吸器用ポンベを使用する場合の、減圧弁及びホースを附属すること。
- (9) 緊急作動については、押しボタンを操作している間だけ作動する構造とすること。
- (10) 不凍液注入装置を取り付けること。ただし、構造上取り付け不要の場合は、取り付けないことができる。

6 圧縮空気泡消火装置

- (1) 圧縮空気泡消火装置は、水ポンプ装置から送られてきた水を利用して、混合器で造られた混合液にコンプレッサーを用いて圧縮空気を送り、配管内部で泡状にして発泡できる装置で、少量の水で効率の良い泡消火ができる構造とすること。また、湿式泡と乾式泡の2種類を作成でき、泡ノズルを用いることなく吐出できる構造とすること。

(2) 性能

ア 最大水流量600 L/min 以上、最大空気吐出量3,200 L/min 以上とし、最大泡吐出量3,800 L/min 以上とすること。また、ポンプ操作装置内の泡流量計で吐出量が確認できる構造とすること。

イ 泡吐出圧力は、0.3 MPa～1.0 MPa まで無段階調整できるものとし、吐出泡流量はスロットル操作に応じて任意に調整できる構造とすること。

ウ 泡原液濃度の設定は、0.3%～1.0%の8段階の設定が可能で、ポンプ操作装置で設定ができる構造とすること。

- (3) 操作は容易かつ集中操作できるよう、ポンプ操作装置で操作可能な構造とすること。また、湿式泡、乾式泡及び泡原液濃度の切替操作はワンタッチで行え、放水中でも可能な構造とすること。

(4) 安全装置

ア 運転時、適性な回転数に上げた後においては、スロットル操作をしても回転数が上がらないよう過回転防止機能を設けること。

イ 泡原液の供給ができなくなった場合、自動的に水のみを放水に切り替わる構造とすること。

(5) コンプレッサー

- ア オイル循環式ロータリー式コンプレッサーとし、オイルは冷却機により冷却する構造とすること。
 - イ コンプレッサーはメンテナンスを考慮し、国産製とすること。
 - ウ 真空ポンプ兼用とすること。
 - エ コンプレッサーの冷却水は、水槽へ還流する構造とすること。また、切り替えることにより、車外に排水できる構造とすること。
 - オ コンプレッサーの油温が過熱した場合、警報を発する構造とすること。また、液晶パネル内に、油温計を表示できる構造とすること。
- (6) 混合装置は、水量を感知して自動的に原液量を調整する電子式比例混合式とし、液晶ディスプレイ内に表示する構造とすること。また、混合比の変更は、放水中でも可能な構造とすること。
- (7) 消火活動中、車載の泡消火薬剤が少量になった場合、予備の泡消火薬剤が吸液できるよう、外部吸液切替コックを設けること。
- (8) その他、ここに記載のない機能、安全装置等はメーカー仕様とすること。

7 エンジン冷却水補助冷却装置

- (1) ポンプ運転時にポンプからの吐水により、エンジン冷却水及びP T Oギヤケースの過熱を防ぐ、補助冷却装置を取り付けること。
- (2) 補助冷却装置には、放水中にポンプより加圧された水にてP T Oギヤケース及びサブラジエーターを強制的に冷却する水を外部に排出せず、タンクへ戻す環流装置を次のとおり設けること。
- ア 中継放水時にも使用できること。
 - イ 冷却配管の圧力が高くなりシャシ側の機器（P T Oギヤケース及びサブラジエーター）が破損するのを防ぐため、安全弁を設けること。
- なお、安全弁が作動不良を起こしても減圧できるよう、二次的な安全装置も併設すること。

8 ポンプ操作装置

- (1) ポンプ室左右側板部に圧力計、連成計、真空計、水流量計、積算計、泡流量計、泡混合比、ポンプスロットル、真空ポンプ操作、表示ディスプレイ等の操作装置を設けること。また、表示ディスプレイ等は、真空ポンプ動作、放水口及び吸水口の開閉揚水完了などが容易に確認できる図形式とすること。

なお、昼夜問わず視認しやすいよう画面は7インチ以上ワイドタイプとし、高輝度低反射パネル及び自動調光機能付きとすること。

- (2) ポンプスロットルは、電気式スロットルとし、誤作動を防止するため左右とも右回転でスロットルアップすること。
- (3) 真空ポンプ操作及びスロットル操作は非常用の手動操作ができるようにすること。
- (4) スロットル固定機能として、不用意にスロットルに触れてもエンジン回転の上昇を防ぐ機能を設けること。
- (5) ポンプ圧力を任意に設定し、設定圧以下になった場合は設定圧まで圧力を上昇させ、設定圧以上になった場合は設定圧まで圧力を下げる任意圧力安定機能やあらかじめ設定された圧力まで上昇し、安定する圧力設定開始機能を設けること。さらに、放水停止（緊急ボタン）を押すとエンジン回転がアイドリングまで降下する放水停止機能を設けること。
- (6) シャシ DPR インジケータランプの出力を液晶パネル内にも表示可能とすること。
- (7) オプション設定がある場合は、別途協議すること。

9 配管

- (1) 各配管の耐水圧性能は、次のとおりとすること。
 - ア 吐水配管及び吐水配管系部品は2 MP aで漏水がないこと。
 - イ 吸水配管及び吸水配管系部品は2 MP aで漏水がないこと。
- (2) 各配管は、次のとおりとすること。
 - ア 配管は、必要に応じてシャシフレーム等と確実に固定するとともに、たわみ等の影響を逃す方法で行うこと。
 - イ 配管の分岐及び異口径管の接合は、合流損失、曲がり損失、摩擦損失及びエアークケットが少ない方法で行うこと。
 - ウ フランジ継手部は、スパナ又はレンチ等で作業ができるスペースを確保すること。
 - エ 各配管は、整備等の場合に容易に取り外せるように分割すること。
 - オ 各コック部は、折損防止のために受け台等により強固に固定すること。
- (3) 吸水配管は、次のとおりとすること。
 - ア 吸水口は双方向サイドプル方式構造に対応可能な位置に取り付けること。また、車体左右に各1口設け、呼称75の棒吸管が取り付け可能な構造とし、ツインスタースクリューロック金具を取り付けること。

- イ 吸水口は、ボールコックとし、コックレバーは容易に開閉できること。
 - ウ 水タンク吸水配管の途中にタンク吸口コックを設けること。
- (4) 中継配管は、次のとおりとすること。
- ア 中継配管は、呼称65以上とし、吸水配管へ接続すること。
 - イ 中継口には、通水抵抗の少ない堅牢なストレーナーを設けること。
 - ウ 中継口は呼称65のオスねじ付きとし、左右ポンプ室内に各1口設け、中継媒介金具を取り付けること。
 - エ 中継口は、ボールコックとし、コックレバーは容易に開閉できること。
 - オ 中継口用コックには、操作の容易なドレン装置を設けること。
- (5) 吐水配管は、次のとおりとすること。
- ア 吐水配管は、呼称65以上とし、自動放口閉塞弁から左右に延長し、これを二又に分岐すること。
 - イ 放水口は、呼称65オスねじ付きとし、左右ポンプ室内の中継口及び吸水口付近に可能な限り左右対称に各2口設けること。また、放水コックは、ボールコックとし、コックレバーは任意の位置で確実に固定できること。
 - ウ 放水口用媒介金具を取り付けること。
 - エ 放水口コックには、操作が容易なドレンを取り付けること。
 - オ 冷却配管を分岐すること。
- (6) 積水口配管は、次のとおりとすること。
- ア 積水口配管は、呼称65以上とし、水タンクに接続し、ボールコックを取り付けること。
 - イ 積水口は、通水抵抗が少なく堅牢なストレーナーを設けること。
 - ウ 積水口は、呼称65差込メス式覆冠式とし、左右ポンプ室に各1口設けること。
 - エ 積水口には、操作の容易なドレン装置を設けること。
 - オ 水槽への水の補給条件（送水圧力）が表示されていること。
- (7) 計器用配管は、次のとおりとすること。
- ア 材質は、呼び径6mm以上のシンフレックスチューブ等とし、残水が流れやすいよう可能な限り計器側から下り勾配を付けること。
 - イ 配管は、側板等の裏側に整然とクリップ等で固定すること。
- (8) エジェクター配管は、次のとおりとすること。

ア エジェクター配管は、吸水口ボールコックを中間にしたバイパス式とし、その配管は、呼び径8mmのシンフレックスチューブとすること。

イ エジェクター配管に、操作バルブ及びグラスボールを設けること。

(9) ドレン配管は、次のとおりとすること。

ア ドレン配管は、呼び径8mm以上のシンフレックスチューブ又は鋼管とし、給油配管を除く各配管の残水が完全に排出でき、かつ、排水が車体各部にかからないように下方まで延長して設けること。

イ ドレンバルブは、集中操作できるよう設けること。

ウ 車体下方にドレンバルブを設ける場合、ドレンバルブの下方側には、200mm以上の地上高を確保すること。

第7 水槽

1 水槽は、容量600L以上とし、上部に点検口を設けること。

2 水槽の材質は、板厚3mm以上のアルミ製（内部コーティング）又はステンレス製（SUS304）とし、角型で内圧に対して変形及び漏れのない構造とすること。また、水槽への最大送水圧力は0.35MPaとすること。

3 水槽下部に、タンク吸水口、水量計口及びバルブ付きのドレンパイプを取り付けること。

4 水槽上部にオーバーフローパイプを車両下部まで配管すること。

なお、走行時の漏水が最少となる構造とすること。

5 タンク吸水コックは、左右ポンプ室内に取り付けること。

6 水槽水量計を、左右ポンプ室内の見やすい位置に設置すること。

7 タンク残量を昼夜ともに容易に視認できるようポンプ操作装置に電子水量計を左右に設置すること。（警報ブザー付）

第8 ボディ

1 艀装材料の厚さ

艀装材料の厚さは次によるものとし、フローステップ、バンパー上部及びその他必要とする部分はアルミ縞板であること。

(1) 側板 I型 1. 6mm以上

(2) サイドエプロン 1. 2mm以上

(3) フェンダー 1. 0mm以上

(4) ホース延長用資機材昇降用レール 4. 5mm以上

2 構造及び性能

- (1) 特に指示する部分を除き、全て金属製とすること。
- (2) 総体的な重量軽減を図り、前後輪荷重及び左右バランスを考慮すること。
- (3) ボディ全般にわたり、防蝕性及び防水性を十分考慮すること。
- (4) ボディ内部・外部で水の溜まるおそれがある箇所に、内径15mmの水抜き穴を設けること。
- (5) 点検・整備に際して工具類を使用するためのスペースを確保すること。
- (6) ブラケット、ステップ及び手すり等を取り付ける部分は、十分な補強を施すこと。

3 外枠

- (1) 骨組は、シャシに強固に取り付け、側板等に直接大きな荷重を負担させないものとする。
- (2) 骨組をシャシ部分に取り付ける場合は、原則としてリベット接手又はボルト締めをすること。
なお、重要部分のボルトは、ダブルナットを使用すること。
- (3) 骨組や側板の切断端又は溶接部分は、危害防止のためバリ等がないよう丸みをつけること。
- (4) ボディ側板は、後部内側折曲式に加工すること。
- (5) ボディ上部は、作業スペースとして使用できるように骨組の配置を考慮し、努めて平面とすること。
- (6) ボディ上面床板は、アルミ縞板を張り水密性に優れた構造とすること。
- (7) アルミ縞板張りの床板等が車両側板と接する部分は、側板に沿って折り曲げること。
- (8) 水槽のマンホール上部の床板は、キャッチ蓋の点検口を設けること。
- (9) ボディ上面の組合が別に指示する部分には、ステンレス製の手すりを設けること。
- (10) 外枠は、ボルトヘッド等が外観よりできる限り目視できない構造とすること。
- (11) 左右側面上部を嵩上げし、嵩上げ部に照明角度を保つように補助散光灯及び作業灯を取り付けること。
- (12) ボディ上部に、夜間作業も容易にできるよう、照明灯（LED灯）を取り付け、車両キャブ内の機能集中操作スイッチにメインスイッチを設け、昇降梯子付近にON、OFFスイッチを取り付けること。

4 昇降梯子

昇降梯子を次のとおり取り付けること。

- (1) 昇降梯子は、堅牢かつ乗降しやすい構造とすること。
- (2) ボディ後面に、ボディ上部乗降用展開式昇降梯子を設けること。
- (3) 昇降梯子の踏面は滑り止めを施すこと。
- (4) 昇降梯子には、手すり（ステップ一体可）を取り付けること。

第9 ボックス類

1 構成

バッテリーボックス、ポンプ操作部ボックス、ポンプ操作部下部ボックス、ボディ左右ボックス、ボディ後部ボックス及びボディ上部アルミ収納ボックスから構成するものとする。

2 性能及び構造

- (1) 各ボックスの扉は、堅牢な構造とし、合わせ目にゴム製パッキン等を使用し水密を保つこと。
- (2) 各ボックスには、別に指示するボックスを除き、取り外し可能な樹脂製のこの板を排水性に考慮し敷くこと。
- (3) 各ボックス内に、夜間操作も容易にできるよう照明灯（LED灯）を取り付けること。
なお、車両キャブ内の機能集中操作スイッチにメインスイッチを設け、点消灯はシャッター又は扉の開閉に連動すること。
- (4) 組合の指示する場所にパンチングパネル及びレール式フックを取り付けること。
- (5) 横開きの扉は、原則として前ヒンジとし、扉を開いた時に車体と接触する場合は、その場所にゴム等の保護材を取り付け二重ロックの構造とすること。
- (6) 下ヒンジ付扉の構造は、次のとおりとする。
 - ア ボディ左右シャッター下部は下ヒンジ付扉とし、開放時にステップとして使用でき、フルフラット構造であること。
 - イ 扉の内側にアルミ縞板を取り付け、扉の厚み部分からエッジ部分に、滑り止めを取り付けること。
 - ウ 固定装置は、チェーン、ダンパー等活動障害になるものは取り付けない構造とすること。
 - エ ヒンジは閉扉時に視認できない構造とし、強固に取り付けること。
 - オ 扉キャッチを取り付ける構造の場合は、扉面からの突起の少ないステンレス製ラッ

チ式平面埋込型とすること。また、施錠がワンタッチで操作できる独立したステンレス製ストッパー（フランス落とし等）を取り付け、二重ロックとすること。

カ 開放時夜間でも視認できるようLED白色照明灯を取り付けること。

(7) シャッターは次のとおりとすること。

ア オールボックスタイプとし、左右及び後部に上下開閉式のもの設けること。

イ シャッター巻取部に、巻き込み防止措置（パンチングパネル張り）を施すこと。

ウ シャッターは、アルミ合金製でスラット1本ごとにシーリング材が取り付けられ防水性及び防振性を確保すること。

(8) 各ボックスは、ブラケット又はキャッチ等を使用し、各種載品及び各附属品等を全て容易に固定収納できる構造とすること。

3 バッテリーボックス

(1) 車体右側キャブ後方下部に、バッテリー2個を収納できるボックス及び乗降用ステップを設けること。

(2) バッテリーボックスはスライドロック式で扉を設けること。

(3) 収納蓋は横開きとし、2重ロック又は鍵付きロックとし、安易に開かない構造とすること。

4 ポンプ操作部ボックス

(1) ポンプ関連操作部は、各操作レバーが操作の障害とならないよう機能的に配置し、各操作レバーの開閉の方向は同一方向であること。また、操作部下部は排水性を考慮した構造とすること。

(2) ポンプ操作部上部に、資機材収納スペースを設け脱落防止措置を講ずること。

なお、詳細にあつては、別途協議すること

(3) 吐水口、中継口及び吸水口周囲に面金板を取り付けること。

5 ポンプ操作部下部ボックス

左側に収納ボックスを設けること。

6 ボディ左右ボックス

(1) ボディ左右ボックスは、組合の指示する資機材を効率よく収納できる構造とすること。また、資機材棚を設ける場合は、上下2又は3分割に区画できる分割仕切板を設け、上下分割仕切板はボルトにより固定し、スライドレール式により分割仕切板の移動が可能な構造とし、奥行きは可能な限り最大限とすること。

なお、その他の収納方法については、別途協議すること。

- (2) 収納物が落下又は移動した際、シャッターの開閉に影響のないよう、各段及び各資機材ごとに長さ調節機能を有した樹脂製バックル式の固定バンドを2本以上設けること。

7 ボディ後部ボックス

- (1) 収納庫にホース延長用資機材及び電動油圧昇降装置（展開式）を取り付けること。
- (2) 収納庫内に予備ボンベ収納庫を設け、ボンベ収納庫上部に収納スペースを設け落下防止措置を講ずること。また、左右に資機材取付スペースがある場合は、組合の指示する資機材を取り付けること。

なお、詳細にあつては、別途協議すること。

8 ボディ上部アルミ収納ボックス

- (1) ボディ上部運転席側に取り外し可能なアルミ縞板製収納ボックスを取り付けること。
- (2) 収納ボックスは、アルミ縞板製蓋付きとし、ダンパー式固定金具を取り付けること。
- (3) 収納ボックスの大きさは最大限の大きさとし、補強を施すこと。

9 ボディ左右後方下部に側方灯（LED灯）を各1か所取り付けること。

第10 積載はしご昇降装置

- 1 積載はしご昇降装置は、手動昇降（バランスダンパー）方式とすること。
- 2 はしご収納枠に、三連はしご及びかぎ付はしごを収納できる構造とし、左側面にとび口を2本取り付けできる構造とすること。また、三連はしご脱着に際し、かぎ付きはしごを取り外さず脱着できる構造とし、ストッパー（布ベルト不可）にて確実に固定すること。
- 3 はしご収納枠は、走行時及び昇降時に積載はしごが脱落しないようはしごを確実に固定できる構造とすること。
- 4 積載はしご昇降装置は、車両の走行振動及び急停車等の衝撃に耐えられ、走行時に昇降動作をしないよう安全装置を施すこと。
- 5 給脂を必要とする部分は、容易に給脂ができること。
- 6 積載はしご昇降装置操作時、キャブ内の警告モニターで表示する構造とすること。

第11 ホース延長用資機材

ホース延長用資機材（以下「ホースカー」という。）は次のとおりとする。

1 ホースカーの構造及び規格

- (1) ホースカーは、アルミ製加納式（スタンド付）とし、上下2段式にホース収納箱を装備し、ブレーキ付きとすること。

(2) 上段収納箱部は、堅牢な枠を設け、資機材が収納できる構造とし、落下防止用に長さ調節機能を有した固定バンドを設けること。

(3) 下段収納箱部は、65mmホースが8本以上収納できる構造とすること。

2 ホースカー側面に、ノズル2本、二又分岐管及び媒介金具を取り付けること。

3 ホースカー積載台は、ホースカーを確実に固定でき、ホースカーの重量に耐えられる強固な構造とすること。

4 ホースカー積載台上部に、予備ボンベ収納棚及び資機材収納棚を設けること。

5 ホースカー固定装置は、ホースカーを強固に固定し、車両の走行振動や急停車等の衝撃に解除及び脱落しない構造とすること。

6 ホースカー動力昇降装置は、昇降時警報を発する安全装置付きとし、容易に操作できる構造とすること。

なお、故障時には手動操作ができる構造とすること。

7 ホースカー動力昇降装置操作時、キャブ内の警告モニターで表示する構造とすること。

第12 空気呼吸器取付装置

1 空気呼吸器取付装置を助手席背もたれ内に1か所、後部座席背部に2か所設けること。

2 後部座席取付装置は、マジックベルトを用いた方法で固定できるものとし、助手席は飛鳥車体制又は同等品以上とすること。

第13 吸管巻取装置

1 吸管巻取装置は電動式双方向サイドプル方式（シングル）とし、ポンプ室後部に取り付けること。

2 吸管伸長時、ボディ及び他の装置との干渉を防ぐため必要な箇所にガイドローラーを取り付けること。

3 故障時には手動操作ができる構造とすること。

第14 更新対象車両からの載せ替え機器

1 消防専用電話装置

(1) 取付位置は、助手席から操作しやすい位置とし、キャブ内にスピーカーを取り付けること。

(2) 取付金具は、メーカー純正金具を使用すること。

(3) 電源は、バッテリーから直接供給しエンジン停止時にも起動すること。

(4) 移設工事については、別途協議すること。

2 車外無線送話器取出口

- (1) 取付位置は、左右ポンプ室内とし、操作しやすい位置にボックスを設け、通話装置及びボックス型スイッチを取り付けること。
- (2) 車外通話装置上部にスピーカーを取り付けること。
- (3) ボックス型スイッチは、単独で車外通話装置の作動を制御できる構造とすること。

3 AVM装置

- (1) キャブ内の助手席から操作しやすい位置に取り付けること。
- (2) 電源は、バッテリーから直接供給しエンジン停止時にも起動すること。
- (3) AVM動態スイッチを車外無線送話器取出口ボックス内に取り付けること。
- (4) 移設工事については、別途協議すること。

第15 取付品及び取付装置

別表1、別表2及び別表5に掲げる取付品及び取付装置は、次のとおりとする。

1 赤色警光灯等

- (1) 散光式警光灯（LED）はハイルーフ一体型とすること。
- (2) フロントグリル内及びフロントバンパー側面に、赤色LED点滅灯を散光式警光灯と連動で作動するよう各2個取り付けること。
- (3) 後部ボディ左右に補助散光灯保護枠付きで、散光式警光灯と連動し、キャビン内に消灯スイッチを設けること。
- (4) ボディ左右嵩上げ部に、補助散光灯を左右各2か所に取り付け、作動は散光式警光灯と連動し、キャビン内に消灯スイッチを設けること。
- (5) 各補助散光灯の点滅パターン選択スイッチをキャブ内に設けること。また、減光機能は、サイドブレーキ連動とすること。

2 電子サイレン

- (1) 取付位置はオーバーヘッドコンソール中央とし、電源は、エンジンスタートスイッチのACCに連動すること。
- (2) 電子サイレンアンプは、音声合成内蔵型とし、配線は、散光式警光灯内蔵のスピーカーへ配線すること。
- (3) 車両後部に電子サイレン専用のスピーカーを取り付け、後退広報用に配線すること。
- (4) 音声合成は、電子サイレンアンプの音声合成スイッチをONにしたとき作動する構造とすること。

第16 附属品

別表1及び別表2に掲げる附属品は、次のとおりとする。

1 電動サイレン

電動サイレンは6SA型とし、キャブ上部前方中央部に埋め込み一体型で設け、スイッチ取付位置は、別途協議すること。

2 照明灯等

- (1) 車体上部左右前部に伸縮式ポールタイプ（1m程度）を付属とし、LEDサーチライトを取り付けること
- (2) 車体上部後方に固定型タイプLEDサーチライトを取り付けること。
- (3) ボディ左右嵩上げ部及びボディ後部に、作業灯を各2か所取り付けること。
- (4) キャブ内機能集中操作スイッチにメインスイッチを設け、操作しやすい位置に個別のスイッチを取り付けること。

3 標識灯

標識灯は、キャブハイルーフ左右に埋込式で取り付け、「草加北2」と表示すること。

第17 その他

- 1 受注者は、車両の製作に先立ち、組合と製作上の細部にわたり十分な協議をした上で艤装を行うこと。
- 2 ナンバーは、組合が指定した数字を取得すること。
- 3 業務上知り得た事項を漏らしてはならない。
- 4 不当要求等に対し、次の事項を遵守すること。
 - (1) 受注者及び受注者の下請け業者が、不当要求行為を受けた場合又は不当要求行為による被害を受けた場合若しくは被害が発生するおそれがある場合は、組合管理者に報告するとともに、所轄の警察署に通報すること。
 - (2) 受注者は、組合及び所轄の警察署と協力し、不当要求行為の排除対策を講じること。

5 問合せ先

埼玉県草加市神明二丁目2番2号

草加八潮消防組合 草加八潮消防局警防課 救助係

TEL 048-924-0967

FAX 048-928-8454

別表1 備えなければならない取付品及び取付装置

番号	品名	規格	数量
1	ポンプ圧力計		2個
2	ポンプ連成計		2個
3	エンジン回転計		1個
4	エンジン油温計		1個
5	赤色警光灯	散光式警光灯ハイルーフ一体型	1式
6	電子サイレン	T S K - D 1 5 2 Y (イエल्प付)	1式
7	照明灯	前 P C H 2 4 - P (伸縮ポール付1m)	2個
		後 P C H 2 4 - D D	1式
8	後退警報器		1個
9	標識灯	ハイルーフ左右	2個

別表2 軽微な変更として備えることができる取付品及び取付装置

番号	品名	規格	数量
1	G P Sカーナビゲーション	チューナーレス、7インチ以上	1式
2	電動サイレン	6 S A型	1個
3	真空計	左右各1	2個
4	ポンプ回転計	左右各1	2個
5	流量計	左右各2	4個
6	積算流量計		2個
7	キャブチルト装置		1式
8	オイルパンヒーター	マグネット式コネクター (コード付き)	1式
9	不凍液注入装置		1式
10	スタッドレスタイヤ	ブリヂストン製	7本
11	作業灯	ボディ嵩上げ部 M7 Z C 2 4	4個
		ボディ後部 M7 Z C 2 4	2個
12	車外無線送話器取出口		2個
13	反射材	3M コンスピキュイティ	1式

別表3 備えなければならない附属品

番号	品名	規格	数量
1	吸管	呼称75×10mエキスパン結合金具 超軽 量型(LF-RS)、又は同等品以上	1式
		棒吸管2.5m×3本 ツインスタースクリューロック	1式
2	吸口ストレーナー	ポリプロピレン製	3個
3	吸管ストレーナー	ポリプロピレン製75mm黒色 消火栓金具にワンタッチ脱着可能金具付	2個
4	吸管ちりよけ籠	ポリプロピレン製	2個
5	吸管まくら木	ゴム製	2個
6	吸管ロープ		2本
7	消火栓金具	エキスパン結合金具	1個
8	中継用媒介金具	呼称65メスネジ×呼称65差込メス(A C)キャップ付	2個
9	消火栓開閉金具	スピンドルドライバー(サイズは別途協議)	1本
10	吸管スパナ	スロッター型	2本
11	ノズル(ガンタイプ)	圧縮空気泡消火用ノズル	2個
		アクロンターボジェットノズル	2個
		Gフォース・トリガー	2個
		ボアテックスノズル	2個
12	放口媒介金具	マルチタイプ(65/50)、65 各2	4個
13	とび口	グラスファイバー製 1.8m	2本
14	金てこ		1本
15	剣先スコップ		1本
16	ホース延長用資機材	アルミ製加納式ホースカー	1式
17	はしご	三連はしご KHFL-CT87	1本
		カギ付きはしご KHFL-CT31	1本
18	車輪止め	ゴム製(黒色)	2個

19	消火器	自動車用（ABC粉末6kg）	1本
20	ポンプ工具		1式

別表4 軽微な変更として備えることができる附属品

番号	品名	規格	数量
1	タイヤチェーン	シングル	1式
2	分岐管	二又マルチ	1式
3	ホースブリッジ	コンパクトブリッジ	1式
4	ワイヤー	トラック用	1本
5	照明器具（E054）	信号付投光器（LED）、三脚、発動発電機（EU9i）、蓄光型コードリール30	1式
6	スタンドパイプ	エルボ離脱式 800	1本

別表5 その他の取付品及び附属品

番号	品名	規格	数量
1	水槽（600L以上）	アルミ製又はステンレス製	1式
2	ポンプ圧力自動制御装置		1式
3	自動揚水装置		1式
4	無給油真空ポンプ		1式
5	動力昇降装置	動力展開式	1式
6	吸管巻取装置	電動式双方向サイドプル（シングル）	1式
7	積載はしご昇降装置	手動式バランスダンパー	1式
8	機能集中操作スイッチ	SBW-D1（10連ボックス）	1式
9	補助点滅灯	フロントグリル TLMIBR	2個
		バンパーサイド VTXFCR	2個
		嵩上げ部 M7FCR24	4個
		車両後部 M7FCR24	2個
10	ボックス灯	LED灯（テープタイプ含む） 必要数	1式
11	補助照明灯	下ヒンジ付扉 LED白色照明灯 必要数	1式
12	タイヤ灯	LED灯	2個

13	テールランプ	LED灯	1式
14	バッテリー引出し装置	スライドロック式	1式
15	バッテリーメインスイッチ	LED灯 メイン照射灯(LED)含む	1式
16	車輪止め収納ブラケット	2個用(取り付け位置別途協議)	1式
17	消防章	直径150mm	1式
18	フォグランプ	LED灯	1式
19	サイドバイザー	樹脂製	1式
20	フロントエアコン		1式
21	リヤクーラー	ユニット一体型	1式
22	泥よけゴム		1式
23	フロアーマット	ダブルキャブ用	1式
24	ドライブレコーダー	メーカー仕様(常時録画) (32GBのSDカード付)	1式
25	バックアイ・サイドカメラ	ルームミラー型	1式
26	キャブ内外S字フック	S字フック内訳 別途協議	1式
27	ドア足下灯	LED灯	1式
28	キャブ室内灯 大	LED灯 後部×1	1式
	キャブ室内灯 小	LED灯 前部×2	
29	マップランプ	LED灯 後席2(フレキシブル)	1式
30	アルミ収納ボックス	寸法は別途協議	1式
31	空気呼吸器取付装置	前席 飛鳥車体制又は同等品以上 後席 マジックバンド×2	1式
32	空気呼吸器	ライフゼムA1-12 アクトハーネス CX面体ビジュラートII(空気ボンベ530 CIII AZ、刻印「F307」上下カバー付)	3式
33	予備ボンベ	530CIII AZ 刻印「F307」上下カバー付	3本
34	予備ボンベ収納棚	4~5本程度(50用)	1式

35	電動パワーカッター	CE090DZ (レスキューブレード) バッテリー2個(5Ah) 充電互換アダプター(ADP10) 2個	1式
36	電動チェーンソー	MUC027GZR3 パワーシャープ、パワーソースキット付(XGT6)	1式
37	ホースバック	サイズ別途協議	3個
38	漏水防止バンド	BE-001(50)(65) 各5	1式
39	媒介金具AC	呼称65メス×呼称50オス	各1個
		呼称50メス×呼称65オス	
		呼称65オス×呼称65オス	
		呼称65メス×呼称65メス	
		呼称40メス×呼称50オス	
		呼称75ツインスター×呼称65差込オス	2個
呼称75メスネジ×呼称75ツインスター			
40	RCパール	レスキューアックスDPX-2788	1本
41	消火栓鍵	各種	1式
42	ボルトクリッパー	ZBC-600	1本
43	レスキューコール	ドレーゲルボディガード1000 電池付	3個
44	メガホン	TS-633R (ホルダー附属)	1式
45	簡易縛帯	R-430	1式
46	救急バック 名入れ「北分署」	マルチオキシゲンバックWMOB-5	各1個
		ジャンプキットバックWJK-1C	
		トーマスバックS	
47	救命胴衣	FS-200ARS	3着
48	救命浮環	P-230K	1個
49	フロートロープ	20m (バック付)	1式
50	カラビナ	ロックテリクス ノーズフリーベント	10個
51	機関員用ベスト	メッシュベストBS2 (イエロー)	1着
52	アラミドベスト	アラミドベストBN-1 (黒)	3着

53	トランシーバー	ケンウッド UBZ-LU20	3組
54	検索用自確ロープ	ムービングカラー	3個
		オートロール	3個
55	レーザー距離計	BOSCH Professional GLM100 (アクセサリ付)	1式
56	携帯投光器	オーライト マローダーミニ (附属品付)	5式
57	ファーストレスポンドージ ヤッキ	FR-365 (アクセサリ付)	1式
58	破壊器具	P7 MULTIPRY	1式
59	スケッドハーネス	SK-200C-OR	1式
60	冷却ベスト	ひんやりワーカーS (冷却剤付)	3着
61	絶縁手袋		3双
62	エッジマット	大3枚、小3枚	6枚
63	マスクワイパー	大	3個
64	車両積載用収納バック	中	1個
65	充電式保冷温庫	マキタ製 CW004GZ	1式
		BL4050F	2個
66	スペアキー		2本
67	補修用ペイント	各種	1式
68	予備電球・ヒューズ	必要数	1式
69	カッティングシート	切り抜き文字「草加北2」、「草加八潮消防 局」白色・黒色大各10枚・中各20枚・小 各20枚 丸ゴシック	1式
70	尿素缶	AdBlue (20ℓ)	3缶

別表6 移設物品

番号	品名	規格・形式等	数量
1	消防無線	OKI製	1式
2	AVM端末機	OKI製	1式